

生物的防除部会

平成 29 年度 第 2 回講演会のお知らせ

下記のとおり生物的防除部会 平成 29 年度第 2 回講演会を開催いたします。

演題は「薬剤抵抗性の天敵：IPMの素材として」と「ミツバチに対する昆虫病原性微生物の生態リスク」の2題です。化学農薬の普及に当たり生物農薬と如何に組み合わせて指導するか、会員各社の技術普及担当・営業担当の皆さんは関心の高い話題と思います。

会員の皆様には是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

日時：平成 29 年 10 月 23 日（月） 午後 3 時 00 分～5 時 00 分
場所：東京農業大学 1 号館 5 階 541 教室 ([世田谷キャンパス案内図参照](#))

演題 1 「薬剤抵抗性の天敵：IPM の素材として」

静岡大学名誉教授 西東 力 氏

<講演要旨>

生物的防除を中心に据えた IPM を実践する際、悩みの種は天敵に対する薬剤の悪影響である。薬剤の影響を受けにくい天敵があれば、この問題を一気に解決できるかもしれない。実際、ハモグリバエの寄生バチのなかには有機リン剤と合成ピレスロイド剤に対して抵抗性を示す種が存在するし、昆虫寄生菌では標的の殺菌剤に対して高度の耐性を示す変異体を作出することもできる。それらの概要を紹介したい。

演題 2 「ミツバチに対する昆虫病原性微生物の生態リスク」

東京農工大学 大学院農学研究院 講師 井上 真紀 氏

<講演要旨>

ミツバチは農作物の重要な送粉者であり、日本の農業における送粉サービスの経済価値は他の授粉用昆虫も含めて約 1,400 億円とされる。しかし近年、ミツバチの減少が世界中で報告されている。その原因として、病原性ウイルス・微生物や化学合成農薬などの単独あるいは複合関与が示唆されてきたものの、原因究明には至っていない。現在、私たちは生物防除資材の BT 剤と寄主転換した微孢子虫のセイヨウミツバチへの影響を調査している。本講演では、ミツバチを取り巻く問題から現在の研究までの概要を紹介したい。

なお、聴講料は会員:無料、一般:参加：(法人 5000 円、個人 2000 円)、学生無料。
講演会終了後に、講演者らを囲んでの懇親会（参加費 3000 円）を予定しています。
ぜひご参加ください。

※講演会・懇親会への参加申し込み・お問い合わせは、
生物的防除部会長 根本 久 nemoto.biocont@gmail.com までお願い致します。

以上